JAC北九だより NO.44 (平成20年第6号)

社団法人 日本山岳会 北九州支部 Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club 発 行: 社団法人日本山岳会北九州支部 事務局: 北九州市門司区新原町12-27

関口興洋 方

TEL·FAX 自宅 093-382-6436 携帯 090-8919-6776

発行人:大庭常生

編集人: 関口興洋・伊藤久次郎

第24回全国支部懇「北九州の集い」特集



北九州支部主管の第24回全国支部懇談会が、 10月11日(土) 午後3時から、本部の宮下会長を はじめ、全国から21支部196人の岳友がホテルニ ュータガワに集まり開催された。

会長あいさつ

全国統一された「山の日」をつくろう

日本山岳会 会長 宮 下 秀 樹

皆さん、こんにちは

こんなにたくさんの仲間とお会いできて、大変興奮していると同時に大変うれしく思っております。

このような立派な会を準備された北九州の支部長さんは じめ、役員、お世話役の皆様方、まだ創立8年の新しい北 九州支部では、本当に大変なご苦労があった事かと思って います。ここ数年、本日の会を成功裡に終わらせるため、 いろいろ地道なご努力もあったものと思っております。

本当にご苦労さまでした。

わたしは、この会場のホテルから程近い戸ノ上山のふも との大里というところで生まれ、関門海峡に面した和布利 で幼少期を過ごしました。幼稚園にも行かず、近所の悪ガ ようさい キに引き連れられて、毎日毎日鉄条網の張られた中の要塞 地帯で戦争ゴッコをしていました。もう廃校になった古城 小学校で4年間、清見小学校で1年過ごして、開戦直前の 昭和16年の10月に東京に行った者であります。

昨日、1日早く参りまして、70年前の昔を偲んで、育った所などを歩いてみました。感無量のところがありました。 また、明日もCコースでご案内頂けると楽しみにしています。

先日の全国支部長会議で報告したことですが、今、JAC が直面している2、3の問題を報告致します。

1つ目は、法人制度改革についてであります。この新法

は本年12月より施行されます。5年以内に一般社団法人か公益社団法人になるかを選択しなければなりません。JACは、一般法人あるいは公益法人を目指すにせよ現行の定款では違法になる点が出てきました。定款改定委員会を設けて鋭意検討を始めています。会社法に近い改正で、今度は理事会の責任が非常に大きくなります。従来JACでは会長でも普通の理事でも責任が同一でしたが、新法では代表理事制になり、さらに会長、副会長などは総会での決定事項でなく、理事会決定事項になりました。

目下一番頭の痛いところは、公益法人になった場合、毎年支出の50%以上を公益目的事業に使わなければならないことです。

一般法人を選択した場合でも、公益目的財産残余額(JACの場合、現在3.5億円)が、残額がゼロになるまで公益目的に支出を続けなければなりません。年1,000万円の支出でも35年間かかってしまいます。いろいろ議論のあるところですが、熟慮していきます。

2つ目は、全国で10支部以上で「森づくり」の活動が行われていまして、各支部がそれぞれその地域にマッチした運動をやっています。今全国各地で「植樹」や「森づくり」の会が多く見られます。しからばJACならではの「森づくり」はどうあるべきなのだろうか。我々のフィールドは

山岳です。

山岳環境の保護と育成、そしてそこで活動される人材が 生かされる「森づくり」こそが、JAC独特のものかなあと 思っています。全国で統一されたルールづくりが要望され ています。

3つ目は、まだわたしの心中で考えていることなのです が、「海の日」があって休日であるのに、我々の好きな「山 の日」がないのは、さみしい気がしています。全国では 10あまりの山の記念日があり、主に県別で登山教室とか体 験教室などをやっておられるところが多くありますが、でき

れば全国の統一された山の記念日は考えられないものか と思っています。

中高年の元気いっぱいの仲間がたくさんいる日本山岳 会で、皆さんが心を一つに合わせる運動にならないものか と思っております。

100年を越す伝統と文化の継承を守ってきたJACが今日、 原点に戻って「山を尊び、敬う気持ち」を啓蒙し、後世に 伝えるキッカケが山の記念日であってもと思っているこのご ろです。

以上ごあいさつに代えました。

「北九州の集い」特集

随想 火の山と港町の文化

~日本山岳会第24回全国支部懇談会に寄せて~

千葉支部 No.12196 石岡 憶介

北九州へようこそ!

陸海路の要衝となる関門海峡に面し、「無法松の一生」の 浪花節文化に想いを馳せる北九州市小倉が、今年の全国支部 懇談会の舞台となった。米国発力ジノ経済で足元が沈み、不

安を呼ぶご時世だが、21支部から196人 の「山を想い、人を想う」自然人が結 集した。

「有名な山も温泉もない北九州へよ うこそ!」と大庭支部長の歓迎ユーモア に始まり、支部創立8年にして鋭意取り 組まれた全国大会の熱気が伝わる。



大庭常生支部長

日本山岳会会長のあいさつ



初めに日本山岳会、宮下秀樹会長のごあ いさつがあり、現状の課題とビジョンは次の 通りであった。

1. 法人制度改革・・・新法施行とな る12月から5年以内に一般か、公益か の決定が必須となる。公益法人になっ た場合、支出の50%は、一般の場合の

公益目的財産額(JACの場合3.5億円)の残余額が、ゼ 口になるまで何年間でも公益目的事業への支出が義務付け られたので、頭の痛いところである。

- 2. 森づくりの活動・・・山岳環境の保全・育成は、時代の 要請だとしても、JACとして森づくりを持続させる場合、最 低のルールはどのようなものだろうか?
- 3. 山の記念日・・・・・個人的見解として、海の記念日は 制定されているが、山は県別の体験教室はあっても公式に

制定されていない。山を学ぶ精神を啓蒙し、自然を後世に 残し、山岳文化を継承するために、心を一つにできる国民 運動は可能だろうか?

「山」広報以外にアクセスが少ない一般会員にとって、首 脳が同じ目線で語りかけるほど身近なものはないが、思う に全国組織として入るお金と出るお金、本部と支部を一体化 した連結財務、管理会計、慈善とは違う公益の領域等など ・・・・課題解決への歩みと合意形成が一段と要請される 呼びかけであった。

来賓として副市長のお話も披露され、 昭和38年5市が合併して誕生した北九 州の姿に言及されたが、一大工業地帯 から「エコタウン」へと脱皮し、低炭 素社会への環境保全都市として進 捗 してゆく抱負を述べられた。



橋本嘉一北九州

「松本清張と小倉」 講演



小林慎也教授

続いて下関の梅光学院大学の小林慎也 教授から北九州という風土が生んだ鬼才 「松本清張と小倉」のご講演があった。 元新聞記者の取材魂が溢れておられた が、以下のように要約されるであろう。

1. 本州と九州を結ぶ、幅1キロに満たぬ 関門海峡は、古来から中国大陸や西欧

との玄関口として、モノ、人、情報の交差路であった。神宮 皇后の遠征から、源平の壇ノ浦の戦い、参勤交代、朝鮮通 信使の来日、長崎にいたシーボルトの江戸行、幕末の小倉 戦争など、この狭い海峡が地勢学上大きな役割を果たした。

- 2. 近代に入ると、後背地の筑豊で石炭が産出し、八幡に官営製鉄所が完成して、鉄道や船舶が飛躍的に増え、これが日本近代化を牽引した。その為、多くの労働力を必要とし、人を呼び集める。火野葦平、林芙美子、松本清張の父母もその1人だった。そうした新しい人を迎える、開放的な気質が特徴であった。
- 3. 明治42年、小倉で生まれた松本清張は、ここで人生の半分の40年を過ごした。印刷所、朝日新聞の広告部に勤め、家長として働いた。文学への関心を表には出さなかったが、その経験を血肉として、40才後は、推理小説、歴史小説、ノンフィクション、古代史研究と幅広い方向で文士活動を展開した。

幼少から多感な青年期を独白した「濁った、暗い半生」 を逆手にとって、社会に認められなくても、我慢して努力し た結果である。私小説は好まないと言いながら、自己を見 つめ、自分と家族、そして、日本人の系譜と社会のありよう を軸に追求し続けた。

4. 清張の作品群は「山脈」にもたとえられる。歴史と地理が 好きな清張は旅に憧れを抱いていた。「山」は旅の極点だ ろう。「山」は神が宿る所であり、人の限界の遠くにある超 越的な、神秘的な存在として見ていたのではないか。

その清張には、2つの山岳小説があり、「遭難」と「文字のない登攀」である。前者は、実際に鹿島槍などの現場を踏んで、誰も書かない「山」を描いた。二つの作品には、対照的な結末の見事さがある。

5. 清張の父母の人生は、報われることの少ないものだったが、ロマンチストの父から創造力と向学心を、母からはリアリストの性格と勤勉努力を受け継いだ。それを実人生で大切にし、清張文学として開花させた。小倉時代の苦労と努力があってこそ、その後の人生にプラスとして昇華させたと見たい。その人間像は、この国の風を生き抜いた「努力の天才」といえるであろうか。

最期に「人の一生は、それぞれが自分の才能の有らん限りに気付き、完全燃焼させる努力こそが大切ではないか!」と先生は、清張さんの生涯から結ばれた。精悍なご相貌、強靭な精神力、表現力豊かなロマンで、最期の瞬間(とき)まで筆勢を落さない清張文学の真骨頂を再認識したお話だった。

日の鷹が飛ぶ骨片となるまで飛ぶ (寺田京子)

来年で生誕100年となる清張さんである。「時代の反映や 思想の照射を受けて、変化を遂げてゆく」という清張記念 館から得た生前のメッセージは、100年有余の歴史と伝統を 有する巨大組織JACが、どのように新時代にふさわしく変革 していくのか、輝ける未来像に向けて、どうあるべきか待っ たなしの状況にあるように観える。

わが道は行方も知らず霧の中

(松本清張)

懇親会は炭坑節総踊りで盛り上がる

懇親会では、北九州の最高峰の伏流水を仕込んだ銘酒「天心」も披露され、小倉名物の祇園太鼓がドッシリと腹の底に響いた。無病息災、天



小倉祇園太鼓

下泰平、五穀豊穣の垂れ幕の前で、松五郎を思い出すような「ドンガ、ドンガ」と6人の打ち手が汗だくである。参集した 会員に「元気出せ、出せ」と打ち鳴らしているようで、関を切ったように会員交流が始まる。

福岡県出身の赤坂小梅姐の「炭坑節」に合わせて会場が輪になり、しばし「炭坑夫」気分となった。



懇親会のフィナーレを飾った炭坑節総踊り

記念山行

翌朝は、3 コースに別れた記念歩行となる。A)黒田武士ゆかりの福智山(901行)登頂、B)平尾台カルスト地形の科学探索、C)源平合戦壇ノ浦、高杉晋作の功山寺、関門人道トンネルなど歴史散策を選択できる配慮がある。遥々南の大地に参上するなら、その後は思い思いの旅程も仄聞していたが、とりわけ県境にある「英彦山」(1200行)は人気があったようである。

英彦山と言えば、小倉に住み、女性俳壇で金字塔を打ち立 てた杉田久女(明治23年~昭和21年)が脳裏を過ぎる。何度 もこの霊峰に登っては、言葉を紡いだという。

昭和6年新聞社主催の句会に10万以上の応募があり、その中で久女の俳句は、最優秀金賞となった。その余情ある「帝國風景院賞」作品に触れると、時 鳥に耳を澄ませ、静寂の中で、己がこころを解き放っている一人の女性の「華」に気付くのである。

でです。 一部して山ほととぎすほしいまま (杉田久女)

「北九州の集い」特集

第24回全国支部懇談会の報告とお礼

支部長 大 庭 常 生

第24回全国支部懇談会を当支部が主管することが決まり、昨年9月以来、会場探しから準備をすすめてきましたが、10月11日~12日の日程で全行事を予定通り、無事終了することができました。これもひとえに、支部の皆様方の長期間にわたる熱心なご協力の賜物と感謝しております。さらには、記念講演の講師を務めていただいた梅光学院大学の小林慎也教授、来賓ごあいさつをしていただいた北九州市役所の橋本嘉一副市長、またご後援をいただいた、(財) 西日本産業貿易コンベンション協会の関係者の方々のご支援に対し厚くお礼申し上げます。

11日の懇談会における記念講演は、来年生誕100周年を迎える松本清張にスポットを当て小林教授より薀蓄のあるお話をしていただいた。

メインイベントである懇親会は、ホテルニュータガワの一番大きな宴会場に23テーブルを設営し、全国の会員が交流できるように着席願った。会は末吉会員の見事な進行で始まった。乾杯に先立ち、吉村初代支部長(永年会員)より寄贈された北九州の銘酒「天心」の鏡割りが準備され、本部の宮下会長、北日本代表の日下田栃木支部長、中日本代表の重廣関西支部長、南日本代表の松本元福岡支部長(昨年、秩父宮記念山岳賞を受賞)、地元の大庭が壇上に上がりかけ声とともに鏡が割られた。

その後、吉村さんから乾杯のご挨拶をいただいた。その

中で、「全国をみわたして、四国に支部がないのは寂しく、 ぜひ設立してもらいたい。また鹿児島県には深田百名山が 三山(霧島山、開聞岳、宮之浦岳)もありながら支部が ないのは、やはり寂しい限りであり、支部設立を進めるべ きである」とのお話があったが、傾聴に値する内容であ った。

天心の生1本が振る舞われる中で、懇親会の呼び物である小倉祇園太鼓の演奏が行われた。

演者は今年の競演会38団体中での優勝チーム「末広町町内会」の代表である。

テーブルの枠を超え、あちこちで懇親の度が深まる中で、フィナーレとして準備したのが、「炭坑節」の踊りである。 浜松会員の振り付け指導のもとで、出席者全員が豆絞りの手ぬぐいを首に巻き、大きな輪となって総踊りと化す。1 曲終わったが、アンコールの声がかかり、再び踊りだす。 締めくくりにふさわしい盛り上がりとなった。

翌日は、好天に恵まれ、Aコース、福智山登山(86人)、Bコース、平尾台~貫山登山(26人)、Cコース、関門海峡歴史探訪(61人)ともそれぞれ楽しんでいただいた。

今回の全国支部懇談会と記念行事が、無事終了できた ことを、皆さんとともに喜びたいと思います。

|「北九州の集い|特集

~記念山行~



10月12日(日)

<u>Aコース「福智山」登山</u> 86人を5班編成 急登コースに挑戦!

No.13992 山 田 武 史

平成20年10月12日、全国支部懇談会の記念登山としての、Aコースの福智山登山は総勢86人の参加のもと、上野峡登山口より白糸の滝経由で登り、上野越え経由で、上野峡登山口に戻るルートを取った。午前9時にスタートして、午後2時に下山。合計5時間の山行でしたが、若干の雲

はあったものの、略、晴天に恵まれ、 全員が無事に下山でき、楽しい山行 となりました。

86人の参加者を5班に編成し、各 班に、班長と副班長と救急員を1~2 人、更に無線機(アマチュア無線) を総括、1班、3班、5班にそれぞれ 配置し、当支部会員は全員が、各々 の役割を担当して貰いました。その 結果、登山開始直後に、体調不良者 が出た等のアクシデントも発生しまし たが、即無線での交信で、救急担当 がサポートに当たる応急行動を取り ました。このように、各班長、副班 長を始め、各役割を担当願った当支 部全員の総力の結集によって楽しい 山行となりました事に、まず、お礼を 申し上げます。

そして、遠来の他支部の皆様の声と して「標高が低いゆえ、楽な山と思 っていたが、急登がきつく、なかな か、歯ごたえのある、素晴らしい山 <u>JAC北九だより</u>



届智山(901m)頂上で、Aコースの皆さん

だった」との感想も聴かれました。 天候にも恵まれ、本当に良かったと 思います。なお、登山コースは当初、 鱒淵ダムから自然歩道を登り、ホッ テ谷新道を下って鱒淵ダムに戻るル ートを考えておりましたが、全国から のAコースへの申し込みが84人とな ったゆえ少人数での登山より、かな りの時間がかかると予測した。再度 の下見登山で検証の結果、予定の 午後4時の小倉駅到着は、万一のア クシデント発生を考えると、時間的に 難しいと判断し、登行時間の短い上野 峡ルートに変更した事を申し添えます。

〔Aコース参加者〕敬称略

総括 高橋 毅(青森) 本郷潤一(富山) 大庭常生(纰) 中川博人(石川) 伊藤久次郎(同) 高畠拓生(同) 第2班 中岡邦男(北州) 山田武史(同) 室津 健次(同) 第1班 長谷川雄助(淵道) 舛 木 隆 (北九州) 沼崎勝洋(同) 池田暁彦(同) 末吉史忠(同) 中村喜吉(同) 中村たづ子(同) 山崎幸和(越後) 三戸部清文(同) 山崎レン子(同) 宮崎紘一(黼) 梁取静吾(同) 森 武昭(同) 梁取啓子(同) 斉藤宣雄(同) 石光久仁子(同)

[コースタイム]

07:50 ホテルニュータガワ、大 型バス、マイクロバス、マイ カーにて出発

08:35 上野峡登山口 駐車場

08:50 準備体操、班別点呼

09:00 第1班より順次出発

10:50 第1班 福智山頂上到着(記 念撮影と、順次昼食)

11:30 最終組 頂上到着(なお、 当支部目向さんより、シャン ペン2本の寄贈あり、全員が 少しずつ頂き、登頂を祝った)

11:40 第1班 下山開始

13:00 第1班 上野峡に下山(「白 糸の湯」に入浴)

14:00 最終組 下山(これにて全 員下山)

14:35 最終点呼と解散式(大庭支 部長より、お礼と別れの言葉)

14:40 大型バス、マイクロバスは 小倉駅に向けて出発

15:30 小倉駅到着(ここで、手を 振って、皆々様との別れです

鶴田佐知子(同) 末永軍朗(同) 染谷美佐子(同) 加藤英彦(軌州) 廣永峻一(同) 古市 進(同) 下川幸一(同) 水永一芳(同) 伴 栄子(同) 藤本慶光(同) 酒匂輝昌(福岡) 第5班 田中朝子(同) 石岡愼介(千葉) 第4班 吉永威幸(粃州) 加藤綾子(同) 第3班 橋本美和(同) 俊一(北州) 丸尾龍一(同) 宮城尚志(北州) 小林富雄(同) 牧 寬(同) 救急班 浦田和夫(同) 中谷 充(岩手) 宮本数男(福井) 日向祥剛(北州) 山縣喜美子(同) 江頭精一(同) 中屋重直(同) 板倉健一(同) 大田慶子(同) 星 一男(東海) 岩舘公子(同) 馬場基介(同) 船田洋子(同) 兼森志郎(広島) 玉山保子(同) 山下定治(同) 小林順子(同) 兼森路子(同) 宗實慶子(関西) 山下富美子(同) 杉村 功(同) 重廣恒夫(同) 江 田 晃(同) 末永 勉(同) 国枝忠幹(同) 山内幸子(同) 木 村 明(同) 隈部寿子(同) 三好 久保和恵(同) 大和康郎(同) 勇(同) 川口 宗(同) 佐々木邦彦(同) 服部敬二(宮崎) 合計86人 杉本陽二(同) 井上 彪(同) 乾正太郎(同) 今峰正利(岐阜) 藤川弘子(同) 田上敏行(熊本)

Bコース「平尾台~貫山」ハイキング



カルスト地形の平尾台で、Bコースの皆さん

羊群原の眺望に 感嘆の声!

No.11979 大城戸 昌

北九州の国定公園、平尾台の北端 にある貫山に、総勢26人(会員参加 者23人、プラス友人3人)で登山。

前日、全国支部懇談会で北海道か ら南は宮崎まで、各支部会員の意思の 疎通が、意義あるものとしてなされた。

朝、07:56、ホテルニュータガワを 出発。日曜日とあって交通量は少ない。 絶好の登山日和に恵まれ、08:30平尾 台登山口の吹上峠に到着し、現地集 合組と合流。

軽い体操とストレッチで体をほぐし、 班の編成と役員の紹介を経て、08:55 登山を開始する。最初から急登の連続。 09:38大平山に到着。ここから南側羊 群原の眺望に感嘆の声が上がる。10

分ほど休憩の後、下りを経て再度急登 に挑む。ヒメゴタイ、サイヨウシャジン、 アケボノソウ、ウメバチソウなどの花 が咲いており、疲れを癒してくれる。 山頂直下には雑草の中にひっそりとナ ンバンギセル、センブリがちらほらと咲 いている。11:10貫山に登頂。360度の 展望。Aコースが登っている福智山や 英彦山、犬ガ岳周防灘、遠くに由布岳 がかすんで見える。皆さん、大満足の 様子。

林道手前の広場で昼食。12:08下山 開始。上りとコースを変え、オキナグ サの群生地を通り、中峠へ。自然の造 形美、ピクナルの「キス岩」を見て、 茶ガ床園地手前に着き、そこより植林 の自然歩道を通り、ビジターセンターへ。 時間もあり、希望者は竪穴の鍾乳洞 「牡鹿洞」を散策する。皆さんと合流。 無事故登山を喜び合い、15:30小倉駅 で解散する。

[Bコース参加者]

第1班 原 謙一(信濃) 坂口三郎(栃木) 高木基揚(岐阜) 服部敬二(宮崎) 川越典子(同) 服部岩男(同) 服部澄子(同) 西村信子(纰州) 西村俊二(同) 坂本勝喜(同) 坂本むつみ(同) 佐藤照美(同)

第2班 中村美津子(首糰) 鈴木裕代(同) 前原満之(宮崎) 久峩慧子(同) 清水弘子(同) 大城戸昌敏(批州) 大楠益弘(同) 藤田 傳(同) 橋本建一郎(同) 大木康子(同) 笠原佐和子(同) ビジター3人 合計26人。



Cコース「関門の歴史散策と風師山」



槇 有恒 元会長の記念碑を訪ねる

No 14476 武永計介

Cコースは、源平合戦や馬関戦争 ・日清戦争など、関門の旧跡を訪れ るとともに、関門海峡の展望台「風 師山」から絶景を楽しむコースです。 参加者61人、4班体制で実施しま した。

秋晴れの中、ホテルを8時に出発 した一行は、関門橋を渡り、高所か らの景色を楽しみながら、城下町長 府に向かいました。到着後、城下町 のたたずまいが残る壇具川沿いに、 功山寺を訪れ、国宝「功山寺仏殿」

や「高杉晋作回天義挙銅像」を 見学、高杉晋作伝の紙芝居を昔 懐かしく見ました。復路では、長 府毛利邸から長府藩武家長屋を周 り、イケメンの武将との記念写真 もあり、随分盛上りました。

赤間神宮では、「先帝祭」が行 われる朱塗りの水天門から参けい し、耳なし芳一像や安徳天皇阿弥 陀寺稜を訪れました。隣接する春 帆楼では、日清講和記念館も見 学しました。お昼も近くなり、バ

スで火の山山頂へ移動し3等3角点確 認後、名物「鳥そぼろ弁当」に舌鼓 みを打ちました。昼食後、腹ごなしに 歩いて関門トンネルを渡り門司へ。今回 の企画では、関門を空から岸から海底か ら楽しみました。

最後は、風師山(362m) ヘミニハ イキングを実施。山頂では秋晴れの空 の下、展望も良く、眼下には巌流島や 関門海峡があり、遠く西中国山地も見 えます。槇 有恒元会長記念碑も入れ て記念写真を撮りました。

Cコースは、高齢者も多く心配しま したが、みなさんの協力と温かい心で、 無事に修了できました。ありがとうご ざいました。

[Cコース参加者]

宮下秀樹(謹糰) 野 間 鳥橋 祥子(同) 弘(同) 松元律子(同) 櫻木 勉(同) 塩屋 薫(同) 神崎忠男(同) 木村博行(同) 八木 國子(同) 里見清子(山梨) 孝子(東九州) 谷口ウメ(同) 小倉董子(同) 佐野忠則(東海) 清家順子(同) 吉村健児(北州) 坂本千佐子(同) 阿南寿範(同) 井野千枝子(同) 小西利雄(岐阜) 中野 稔(同) 谷口菊美(同) 井上 佑(同) 森本信子(同) 森下雅幸(北海道) 金尾誠一(富山) 小竹初美(同) 谷口敏子(同) 溝部忠増(同) 倉本とき子(同) 藤内英夫(同) 中川邦子(石川) 今山アヤ(同) 矢野亮子(同) 原 広美(同) 福田陽子(同) 畠山 廸子(同) 長嶺弥恵子(同) 岡本明男(同) 本田誠也(熊本) 関口興洋(同) 助田梨枝子(同) 岡本文江(同) 工藤文昭(同) 黒岩タカ子(同) 横山洋子(同) 合計61人 高橋夕イ子(岩手) 丹下 洽(同) 加賀要子(福井) 門脇愛子(同) 酒井保男(同) 丹下香代子(同) 日下田 實(栃木) 中谷絹子(関西) 大谷セツ子(宮崎) 多田周廣(同) 武永計介(同) 田村佐喜子(信濃) 本片山数雄(広島) 都甲豈好(同) 多田登美子(同)

「北九州の集い」特集

支部懇開催に対して 全国から感謝のお手紙

(順不同、一部省略有り)

○ このたびは本当にお世話になり、ありがとうございました。素晴らしい全国支部懇でしたね。お世話の皆様方に改めて感謝しております。大楠さん、関口さんにくれぐれもよろしくお伝え下さい。週末に宮城支部50周年記念に参りますので、北九州での話をするつもりです。

(首都圏 会長 宮下 秀樹)

○ 2008年全国支部懇談会、約200人の会員との懇親、 北九州の自然、観光を楽しませていただきました。

私にとっては初めての訪問地、楽しいひとときを過ごさせていただきました。山ばかり登っていて、まさか海の下を歩くなどと考えたこともありませんでした。よき仲間、美しい風景に感激、感動の2日間でした。準備をしていただいた関係各位のご苦労を思い、心より深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

余裕とチャンスがあれば家族で行きたくなりました。 (首都圏 副会長 神崎 忠男)

○ 全国支部懇を無事盛大に挙行なさってホッと一安心の ことと存じます。いろいろお世話になり誠にありがとうご ざいました。

福智山登山、最初の急坂にしごかれましたが、頂上のながめを満喫し、下りてきての温泉にゆっくりつかったのは、何よりのことでした。天候に恵まれよかったですね。我が班の先導をしてくださった中岡さんによろしくお伝え下さい。

夕食後の全員参加の炭坑節の踊りも、御地ならでは の良い企画でした。

会報を拝読しましたが、皆さんがんばって遠方の山に チャレンジしておられますね。感心しました。

(首都圏 藤本 慶光)

○ 11月に入って東京は木枯らし1号でしたが、今日文化 の日は、その名にふさわしい陽光です。たくさんの写真 拝受しました。皆さんすばらしい美顔です。

全国集会の大任を果たされ、会員の団結心は一層進むでしょう。昭和30年代後半、福岡に在勤し、戸畑の工業地帯で営業していましたが、文化都市小倉はよく知りませんでした。あの映画(無法松の一生)、阪妻、三船は忘れません。

全国集会の随想をまとめ、小林先生にもドラフト見ていただきました。関口さんにメールしますのでどうぞ読んで下さいませ。 (千葉支部 石岡 慎介)

(石岡氏の随想は、第2頁に掲載済み~編集係)

○ このたびの全国支部懇が大成功に終わりましたことに、 まずはお喜び申し上げますとともに、準備、実行に携わられた大庭支部長さん以下支部員の方々のご労苦に、 心からご苦労様でしたと申し上げます。

そのご多忙な時間を割いて、わたしたち一同にこのうえもないおもてなしをいただき、心からお礼を申し上げます。私のカメラのスナップをお送りしますので、皆様にお渡しいただければ幸いです。一つひとつの場面を見ながら、語りつくせないほどの思い出があふれてきて、どのようにお礼を申し上げてよいか分かりません。ありがとうございました。

(北海道支部 長谷川 雄助)

○ 10月11日、全国から大勢の会員を迎えられ、盛会で 炭坑節で輪になり盛り上がった交流会。12日、Cコース、 長府の歴史、関門トンネル歩き。風師山から海峡を眺め、 最高のコースでした。これらの準備、支部懇でお疲れ のところ、13日、英彦山登山。不安の中の登山でした が登頂でき、皆様のおかげと感謝感激です。陽一(夫、 故人)もわたしのそばで、とても喜んでいたことと思い ます。皆様の温かい心にとてもうれしく、本当にありがと うございました。来年はぜひ、北海道の山へいらして下 さい。心よりお待ちいたしております。

(北海道支部 助田 梨枝子)

○ 先日は、日本山岳会第24回全国支部懇談会に出席させていただき、北九州支部の皆様方には大変お世話になりましたこと、厚くお礼を申し上げます。天気にも恵まれ、楽しい集いに出席がかない喜んでおります。創立8年の支部と伺い、指導者のご苦労と支部員の結束には頭が下がります。全国から大勢の会員が集まり、内容の濃い充実した懇談会でしたが、準備にはご苦労が多々あったことと拝察申し上げます。わたしは山梨支部1人参加でしたが、Cコースを十分楽しませていただき、学ぶところも多く、有り難く思っています。北九州支部の皆様方、お疲れさまでした。よろしくお伝え下さい。北九州支部の益々のご発展を祈念しています。一言お礼を申し上げたくお便りしました。

(山梨支部 里見 清子)

○ 先日の全国支部懇談会では、大変お世話になりありがとうございました。Cコース関門の歴史散策は、期待通り素晴らしい内容でした。翌日、福井支部の方々と平尾台に行きましたが、北九州支部の皆様の分水嶺踏査の地と後で知り、ご苦労を思いました。

(富山支部 金尾 誠一)

○ 写真拝受致しました。ありがとう存じます。山行には 参加できず残念でしたが、代わりに小学校時代の親友2 人に会えて、楽しく過ごさせていただきました。これから もよろしくお願い致します。

(岐阜支部 早田 道治)

○ 10月11、12日は、大変お世話になりました。また写真をお送りいただき、誠に有り難く厚くお礼申し上げます。 栃木支部はまだ1年ちょっとしかたっておりません。これからよろしくお願い致します。

(栃木支部 日下田 實)

○ 全国支部懇では、大変お世話になりました。また写真 ありがとうございました。平尾台大変よかったです。

(福井支部 宮本 数男)

○ 北陸・白山は、3日程前からすっぽり雪覆い、ここ福井市よりも、くっきり望めるころとなりました。小倉での懇親会や功山寺のあった長府の古い歴史のある町巡り、関門海峡歩き、火の山、風師山のすばらしい風景などなど、思い出深い北九州支部よりの旅のプレゼントを頂き、懐かしんでおります。誠に有り難うございました。

(福井支部 加賀 要子)

○ 写真をありがとうございました。わたしにとって九州の山はあこがれ! 今までなかなかチャンスが無くて、行けませんでしたが、今回やっと北九州の山に行くことができました。福智山と平尾台に行き、北陸には無い草花に出会えました。特に目をひいたのはナンバンギセル、初めて見る花でした。北九州の皆様には、大変お世話になりました。ありがとうございました。

(福井支部 大田 慶子)

○ 秋深くなり、近くの白山も字のごとく白くなりました。 先日の全国支部懇では、大変お世話になりました。また 記念の写真もお送りくださり、うれしく思っています。

今は大きな行事を終えられ、肩の荷が下りてご安どの 日々と思います。お疲れが出ませんように。

(福井支部 小林 順子)

○ 全国支部懇では大変お世話になり、また、立派なおもてなしを受けまして、心から厚くお礼申し上げます。 また写真をご送付賜りまして有難うございました。

(福井支部 木村 明)

○ 先日の支部懇には、広島から大勢でお邪魔し、大変 ありがとうございました。小倉祇園太鼓のあの力強い響 きと、翌日の福智山山頂のすばらしい展望とは、貴支部 の実力と将来への発展とを示しているものと感激致しました。これからもお隣同士の支部として、何とぞよろしくお付き合い下さいますようお願い申し上げます。広島の山々も色付き始めました。是非お出掛け下さいませ。貴支部の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(広島支部 杉村 功)

- 中国山地の山々も紅葉の美しい季節となりました。先の全国支部懇「北九州の集い」では、大変お世話になりました。盛大な懇親会並びに関門海峡歴史散策など、大いに満足、楽しませていただきました。わたしも広島支部の懇談会の際には、未熟ながら手伝いましたが、苦労したことが思い出されます。ご苦労さまでした。関係者の方々に厚くお礼申し上げます。また写真を頂きありがとうございました。 (広島支部 野間 弘)
- 先般の全国支部懇では大変お世話になりました。また その時の写真をご恵与いただき、重ねてお礼を申し上 げます。関門海峡の美しい眺めは、忘れがたい思い出 です。お世話いただいた支部の方々にもよろしくお伝え 下さい。 (熊本支部 本田 誠也)
- この度の全国支部懇では、北九州支部の皆様をはじめ、全国の支部の方々を再会して有意義で楽しいひとときを過ごすことができて感謝しています。

とても内容の充実した懇談会でした。このような素晴らしい懇談会を企画、実施された北九州支部の実力に敬服しています。 (熊本支部 田上 敏行)

○ このたびの全国支部懇では、大変お世話になりました。 大勢の参加で大変なご苦労が多かっただろうと推察して おります。お疲れさまでした。

講演「松本清張と小倉」は、身近なお話で思いをはせております。また、記念山行も当支部のレンタカーの中で、各コースの意見交換をいたしましたら、北九州支部ならではの企画だったと好評でした。ありがとうございました。11月3日のウェストン祭をお待ち申します。

(宮崎支部 大谷 セツ子)

○ 秋の風 腹一杯の 馳走かな

支部懇も大盛会に終えました。会遂行に大変ご苦労様でした。わたしまでそのうれしさが伝わります。その節(分水嶺踏査)の記録集「踏みあと」を10月13日、楠田宅に届け、お参りしました。奥さんも深く感謝して下さいました。報告一筆まで。不一

(北九州支部 藤田 傳)

◇ ◇ ◇ 報告・連絡など ◇ ◇ ◇

2008 忘年パーティのご案内

と き 12月13日(土) 17:30から 受 付 16:30から、2階入口で

ところ 下関駅前 シーモールパレス (大丸が入っているビル、駅から徒歩3分)

会費 6,000円

締 切 11月27日(必着)

申込み 事務局 (関口) まで。TEL/FAX 093-382-6436 携帯090-8919-6776

※ 遠隔地やマイカーなどで来られる方で、宿泊希望される方は、駅前付近のホテル(5500円前後)を斡旋します。

知 第 月 切 27 ! 日

北九州支部実施による 中央分水嶺踏査記録集 「踏みあと」発行



支部懇記念品 「カジュアルバッグ」 残りわずか!

北九州支部主管の、第 24回全国支部懇談会開催 を記念して、右の関門橋 をデザインした版画を刷 りこんだ、カジュアルバ ッグ。1,000円。



「踏みあと」、「カジュアルバッグ」の希望者は、事務局(関口)まで申し込んで下さい。

山行計画のご案内

1月の山行

(2009年)

わかすぎやま ほうまんざん

若杉山(681m)~宝満山(830m)縦走。健脚向き (1/18·日)

と き 1月18日(日)

集 合 JR篠栗駅 08:30

コース 若杉山~砥石山~三郡山~宝満山~竃神社~西鉄大宰府駅 (17:00)

申込先 山田 武史 (TEL/FAX 092-844-3563) 直前でも結構です。

尚、このコースは健脚向きにて、又、その時の天候により、軽アイゼンも必要です。新年の夢を抱き、6~7時間のハードな登山に、是非、挑戦して頂きたく思います。追って、下関地区の方は、早い出発となり大変申し訳なく思いますが、是非、多数の参加を期待しております。

2月の山行 (予告)

あぞうじゃま

安蔵寺山(1,263m) 雪山訓練(テント泊) (2/7・±~2/8・5、予定)

※ なお、積雪や交通の状況により、目的地の変更もありうる。

と き 2月7日(土)~8日(日)

ところ 島根県 安蔵寺山

計画担当 内藤正美 (TEL 083-922-3884 携帯 090-8993-0239)

詳細は、次号(1月号)に掲載予定。

サロン ルーム

毎月第4水曜日

毎回盛況、ご参加歓迎!

11月のサロンは、26日(水) 12月のサロンは、ありません 1月のサロンは、28日(水)

と き 午後6時30分から

ところ 小倉北区魚町「コール天」

(魚町銀天街、酒房武蔵より西へ約30m)

会 費 3,000円前後(ワリカン制です)

編集後記

○今回は、当支部主管で成し遂げた、全国支部懇の特集となりました。全国からたくさんの、感謝のお手紙を

いただき、支部会員一同喜んでいるところです。

- ○先に、原稿をいただいた方には、今回掲載できず申し訳 ありませんでした。次号45号に掲載しますので了承下さい。
- ○原稿は関口事務局長または、伊藤Qまで。 伊藤のアドレス rw4ux6@bma.biglobe.ne.jp です。 デジカメ写真は縮小せず添付で送って下さい。
- ○次回の原稿締め切りは、12月25日です。